

第1回蒲郡市景観計画策定委員会 会議録

開催日時	平成30年2月9日（金）午前10時から正午まで
開催場所	蒲郡市役所新館6階 第2委員会室
出席者	<p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊橋技術科学大学 理事・副学長 大貝 彰</li> <li>・豊橋技術科学大学 教授 浅野 純一郎</li> <li>・愛知建築士会 蒲郡支部 青山 俊樹</li> <li>・蒲郡商工会議所 鈴木 寿明</li> <li>・蒲郡にじの会 鈴木 庸子</li> <li>・蒲郡商店街振興組合 鈴木 紀子</li> <li>・蒲郡市文化財審議会 岡田 光男</li> <li>・愛知県広告美術業協同組合 東三河支部 支部長 杉本 直之</li> <li>・西大塚総代 小林 貞介</li> <li>・知柄総代 鈴木 清貴</li> <li>・蒲郡市都市開発部 部長 鈴木 成人</li> </ul> <p><b>【オブザーバー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県建設部公園緑地課 課長補佐 栗田 雅貴（代理出席）</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市開発部都市計画課 課長 宮瀬 光博</li> <li style="padding-left: 150px;">係長 権田 吉宏</li> <li style="padding-left: 150px;">主事 尾崎 晴樹</li> </ul> <p><b>【委託業者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社オオバ 名古屋支店 2名</li> </ul> <p><b>【欠席委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蒲郡市観光協会 事務局長 鹿野 公朗</li> <li>・蒲郡市農業協同組合 販売部農地センター センター長 石川 毅</li> </ul>
議題	<p>1 蒲郡市景観計画策定委員会会長の選出について</p> <p>2 蒲郡市景観計画について</p> <p>(1) 蒲郡市の景観特性と課題</p> <p>(2) 景観計画区域と形成に関する方針</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・蒲郡市景観計画策定委員会委員名簿</li> <li>・蒲郡市景観計画策定委員会設置要綱</li> <li>・第1回景観計画策定委員会資料</li> <li>・資料編</li> </ul>

<p>会議内容</p>	<p>1 事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各委員の紹介</li> <li>・ 会議の公開方法について <ul style="list-style-type: none"> <li>委員への事前の意識調査結果を踏まえて、活発な意見交換や円滑な討議を実現するため、傍聴は実施せず会議の要点記録をホームページで公開し、委員会運営の透明性・公平性を図っていくことに決まった。(委員からの異議なし)</li> </ul> </li> </ul> <p>2 都市計画課長挨拶</p> <p>3 蒲郡市景観計画策定委員会会長の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員からの提案により事務局案として提示した大貝彰委員が互選により選出された。</li> </ul> <p>4 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蒲郡といえば山、みかん、街、海、海岸線、温泉、竹島と大体市民のイメージは固まっているかと思います。それらの大切なものをいかに保全し、さらに活かしてまちづくりに結び付けていくことが求められているのだらうと思います。委員の方々からそれぞれの分野で忌憚のないご意見をいただき、よりよい景観計画が策定できればと思いますので、ご協力よろしくお願ひします。</li> </ul> <p>5 議事録署名者の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会長の指名により、鈴木清貴委員が選出された。</li> </ul> <p>6 蒲郡市景観計画について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 蒲郡市の景観特性と課題</li> <li>(2) 景観計画区域と形成に関する方針 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配布資料に基づき事務局が説明(権田係長、尾崎)</li> </ul> </li> </ol> <p>7 意見交換(発言順 会長含む)</p> <p>A委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 12ページの「将来の景観像」について、それぞれ言葉に込められている意味合いが少しずつ違っていると思われる。①は非常に素直などこにでもあるような表現かと思う。②は、鉄道唱歌が掲げられており、③は「訪れる人」という部分に観光地としての意味合いが込められている。</li> <li>・ 12ページの「景観形成方針」と13ページ以降の「市の骨格をつくる景観形成方針」が同じような言葉で気になる。12ページの方は基本方針や理念的な内容であり、言葉を工夫したほうがよい。</li> </ul>
-------------	--

B委員：

- ・ 1番大事なことは景観計画の意味合いがどう認識されるかである。一般に都市計画は、制限に関わるので、ネガティブなものが付きまとうが、蒲郡市は景観に特徴があるので極端な話「これからは景観で食うんだ」といった攻めのツールとしてこの計画を認識しないと良いものできないと思う。そういった意気込みが表れた将来像が大事であり、例えば12ページ「将来の景観像」について、②はその点で少し特徴があると思う。
- ・ 13ページのゾーン区分について、縦割りの的に分解され、構成を分割しているような感じがする。3ページの蒲郡市の地形の断面構成などを使って、全市的に見られる地形特徴を表現したものを12ページに加えてほしい。
- ・ 市民アンケートでは温泉や海、自然などはたくさん挙げられているが都市部がほとんどない。どうしたら都市の魅力を上げていくことができるのかを考える必要がある。例えば、三谷町や蒲郡駅前にある防火建築帯は非常に特徴があると思うので、そういったものをモデル的なポイントとして検討していくといいのではないか。

C委員：

- ・ (今回の資料が) 他市町村の計画書とよく似ている。他所とは違った蒲郡市の特色を出した計画書になるとよい。

D委員：

- ・ 市民とともに景観形成を進めていくためには、子どもたちがしっかりとこのスローガンや言葉を理解することが重要だと思う。「将来の景観像」の③の「特色ある風景」では抽象的で伝わらないため、もっと具体的に子どもたちがイメージできる言葉にしたらどうか。
- ・ 「健康」という側面からも景観計画の中で表現があるといい。

E委員：

- ・ 蒲郡市の市民憲章には「海と空を美しく みんなの力でまちづくり」とあり、小学1年生でも言うことができる、すばらしい市民憲章であり、これが景観まちづくりの第一歩となっている。
- ・ 既に様々な景観に関する地道な市民活動が行われている。そういった活動も計画に反映していきたい。

事務局：

- ・ 既存の市民活動との景観の関わり方を明示していきたいと思います。

	<p>F委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外から蒲郡に帰ってきたとき、海の景色などをみるとホッとした気持ちになる。やはり蒲郡の景色はすばらしいと思うが、ただアンケートにもあるように、管理されていない空き家や道路のゴミなどを見受けると、残念な気持ちになるので、やはり景観上重要な要素だと感じる。また商店街についても、まちなかの空き家などは大きく景観に関わってくると思う。</li> </ul> <p>G委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先ほど防火建築帯についてポジティブな意味合いの意見もあったが、建物の老朽化や管理のしづらさなどのネガティブな部分もある。</li> </ul> <p>B委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>静岡市では、防火建築帯に魅力を感じた若い人が企業するなどの活用例がある。</li> </ul> <p>H委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三谷温泉は、焼け焦げた建物が見えて景観上マイナスイメージにつながると思う。何とか行政で少しでも手を加えたほうが先へ進んでいくと思う。</li> </ul> <p>A委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三谷温泉は、温泉そのものの役割は十分に果たしているが、景観上少し寂れている印象はぬぐえないので、もう少しよくなればとは思っている。</li> </ul> <p>I委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>蒲郡市はどこから見ても海・市街地・山が見渡せる観光地としてこれからも景観を進めていったほうが良いと思うが、観光の裏にある住民の生活についても目を向けたほうがよい。</li> <li>「将来の景観像」について、②の鉄道唱歌で歌われた「東海道にてすぐれたる 海のながめは蒲郡」と、③の「住む人・訪れる人が癒されるまち 蒲郡」を合わせるとうまく繋がるのではないかと考える。</li> </ul> <p>J委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>景観計画はつくることによって規制に繋がるということが一番根底に思っている策定を進めていかないといけない。</li> </ul> <p>K委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他市町村の計画では、一部分のエリアに強く焦点を当てる例もあるが、蒲郡市の特徴である山から海まで見渡せる景色を捉えるためには景観計画区域は全域でいいと思う。</li> <li>「将来の景観像」については①がよいと思う。</li> </ul>
--	--

オブザーバー：

- ・ 県内54自治体のうち景観計画を策定している自治体は9自治体あるが、海から見た景観や海を望む景観から景観計画を作り上げていこうという点で蒲郡市ならではの特征があり、楽しみでもある。
- ・ (次回以降の話しにはなるが、) 制限内容について、海辺から見た景観の特征を活かすことができると、蒲郡市らしい計画になると思う。
- ・ 観光目線での景観と住民目線での景観、どちらかに偏るのではなく、ゾーンなどを使ってうまく表現できればよい。
- ・ 12ページの「景観形成方針」は、基本方針や基本目標という表現に変えたほうが後々わかりやすいと思う。

会長：

- ・ それでは、事務局は、委員の方々から頂いたご意見を踏まえて、引き続き計画策定の作業を進めてください。

(会議終了)